



北海道
札幌
中島公園

八
田
三
郎
系

少
子
仁

✕



東京赤坂区の本坂

八田仁子

十月廿二日

御文上格

内々

十二日

おるお

仁子

...

一箇の中をまわす まわす本指の量に以てめぐるまわす事した。昨々生
西宮寺の功なりとの有様。下すに 大層由を海に 由すに
不即方と揺るを 少く善い此気よくおまの遊 ありこのより
妍く有るなり 此々に 由を直すあり 由水等いと 何て由すに
ふもも 此れ一寸控へて 由すに 又この由を 配りて 由すに
おすすおんこの由すに けれに 由を 由すに 由すに 由すに
過すに 由すに 何年法由の 頂まり 由すに 由すに 由すに
論 月程と引す 由すに 大なる由を 由すに 由すに 由すに
此世生 悪世の感得の 由すに 由すに 由すに 由すに 由すに

何れの向きでいふにせよ、まをすりか、と申は、長きなり

今世の日本は、東洋の体裁、流儀、風俗の多岐にわたる

曰はる、銀座を中心とし、一、二、大層な人、あつた、

ま、花火の打ちや、提灯行列の国所、不尋ね、さうさ、

殊更、雜陣、一、二、法大徳の所、以、来の、端、い、で、さ、う、さ、

今世の中山、即、は、ま、ま、大、一、該、構、の、い、さ、ま、さ、す、の、大、學、

への、便利、は、ぬ、い、い、い、か、ま、ま、か、い、あ、け、新、の、お、情、け、

した、と、は、續、く、と、い、う、ま、ま、

時、高、初、一、二、江、東、目、中、あ、新、い、か、ま、ま、

お、お、新、ま、ま、の、時、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

ふ、お、新、ま、ま、の、時、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、



仲をけつれつやいな有後を、ふらまりううまふに感えて
.....

脚をよきとしくをけ、そい人もおまひけをほすま、私か

わをき女で教へてけり、まに就随をききま、まじくせんか、はと

いままの過の、いれれ病のるあきくを、^{おぼ}なれたけのあきやん

すい、あきの毒と申して、あきまり、お帳に、あき激しい、すい病と

いままの、あき、はあ、あき、あき、あき

市分指のお、けり、まじく、あき、あき、あき、あき、あき、あき

二の月、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき

あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき

あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき

入院と申し、まじく、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき

あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき、あき